

学校図書館機能の活用を図り、主体的、意欲的に学び続ける力の育成をめざして —各教科等における系統的な学習活動・読書活動の在り方—

吉田 夏紀

学校図書館の活用は、各教科等における言語活動を充実させるための条件の一つとして挙げられている。知識基盤社会といわれる現代において、子どもたちが自ら情報を収集、選択、活用し、社会のあらゆる場所、場面で生涯にわたって主体的に学び続ける力を身に付けるためにも、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を充実していくことが求められている。そこで、本研究では各教科等において学校図書館機能を活用した学習活動・読書活動のモデルを提示した。また、学校図書館活用を通して付けたい力と学習内容との関連を明らかにした「学校図書館活用計画例」を作成した。

第1章 学び続ける子どもが育つ学校図書館

第1節 学校図書館の活用が求められているわけ

学校図書館は、学習・情報センター及び、読書センターとしての二つの機能をもっている。この二つの機能を別々にとらえるのではなく、子どもたちの主体的な学びを支え豊かな心を育むため、それぞれの機能を双方向に活用していくことが重要であると考えられる。

平成20年1月の中央教育審議会答申において、学校図書館の活用は各教科等での言語活動の充実を支える条件として挙げられた。また、小学校学習指導要領の改訂において、各教科における学校図書館の活用がより具体的に明記された。これらが示唆しているのは、学校図書館の活用そのものではなく、学校図書館の活用を通して各教科等における言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育成し、「生きる力」を育むことである。知識基盤社会において、必要な情報を収集、活用し、生涯にわたって学び続ける子どもを育てるため、学校図書館を活用する意義は大きいと考える。

第2節 学校図書館の活用を通して何を学ぶのか

平成24年度全国学力・学習状況調査の第6学年における調査結果から、各学校において子どもたちが読書に親しみ本を読む習慣を形成するための取組がなされていることがわかった。しかし、資料の調べ方を身に付けるよう指導しているにもかかわらず、条件に合わせて資料から必要な情報を取り出すことが難しい、資料を書き写すだけで終わっているという姿も見えた。そこで、本研究では特に、情報を読み、情報を活用して学ぶための学校図書館の活用に焦点を当て、学校図書館を活用することでどのような力を付けるのかという考えに立ち、学習活動・読書活動を展開していく必要があると考えた。

第2章 各教科等における系統的な学習活動・読書活動

第1節 系統的な学校図書館活用をめざして

本研究では、課題解決の過程を以下の六つで表すこととした。そして、それぞれの過程に必要な力を具体的に示した『学校図書館の活用を通して付きたい力系統表』を作成した。この中では、学校図書館を利用する上でのきまりやマナーについて、六つの過程とは別に「知る」という項目で表した。更に、それぞれの過程における「付きたい力」は、低・中・高学年の発達段階及び教科等における学習内容を考慮し系統的に示した。

つかむ	… 主に課題を設定し、課題解決のための見通しをもつ
集める	… 資料を探したり、見つけた資料の中から必要な情報を取り出したりする
選ぶ	… 集めた情報を整理して分類したり、必要なものを選んだりする
まとめる	… 整理した情報を加工する
伝える	… まとめた情報や情報を活用して生まれた自分の考えなどを表現・伝達する
振り返る	… 学習を振り返り、評価する

各学年でこの系統表を基に学校図書館を活用することで、課題解決の過程を意識した学習が展開でき、系統的な学習活動・読書活動につながると考えた。

第2節 各教科等での学習活動・読書活動の展開をめざして

各教科等において目的をもって学校図書館を活用するために、単元目標及び学習内容と付けたい力との関連を踏まえた『学校図書館活用計画例』を作成した。この活用計画例を参考にすることで、どの単元でどのような力を付けるのかについて具体的に単元計画を立てることができ、より計画的、意図的な活用につながると考えた。

第3章 学校図書館機能を活用した授業実践

第1節 第3学年での授業実践から

○「理科」における学習活動・読書活動

「しぜんのかんさつをしよう(2)動物のすがたとかんきょう」の単元では、学校図書館を活用し「学習計画」「目次・索引の利用」などの力を付けたいと考えた。動物の観察に行く前に予想し、観察の計画を立てたことで、観察の意欲が一層高まった姿が見られた。また、観察後に生まれた新たな疑問を解決しようとする意欲につながった。

図鑑を使って動物について調べる際には、目次と索引の意味や使い方について説明する時間を設け、一人に一冊の図鑑を用意した。その結果、目次や索引の便利さを実感し、進んで活用する姿が見られた。

○「国語科」における学習活動・読書活動

「自分の『ふしぎ』について、本で調べてほしくく書を書こう」の単元では、「課題設定」「図書資料(百科事典)の利用」「要約」「出典」などの力を付けたいと考えた。自分が設定した課題の解決に役立つ百科事典の仕組みや使い方について学習する際には、グループに1セットの百科事典を用意したり事典クイズを用意したりした。その結果、百科事典に対する興味・関心が高まり、次時以降も進んで百科事典を活用する姿が見られた。

要約の仕方や出典の記し方について学習する際には、指導者が具体例を示すことで、必要などころだけを簡単な言葉で要約し、自分の力で出典を記すことができた。

第2節 第5学年での授業実践から

○「社会科」における学習活動・読書活動

「米づくりのさかんな庄内平野」の単元では、「情報の読み取り」「情報の整理」「学習活動の評価」などの力を付けたいと考えた。写真やグラフから情報を読み取る力を付けるために、資料を読み取るポイントを示したり、資料の提示の工夫をしたりした。また、2色の付箋を用意したことで、事実と考察を区別して資料を読み取ることができるようになった。更に、資料から読み取った情報を付箋に書き、それを比較・対照したり分類したりしながら整理することで、新たな考えを生み出すことができた。

学習の振り返りにおいては、一単位時間の振り返りカードを作成し、学習の過程と結果の両面を評価することで、本単元で学んだ「学び方」がこれからの学習や他教科でも活かせることに気付くことができた。

○「国語科」における学習活動・読書活動

「理由を明確にし、説明のしかたを工夫して意見文を書こう」の単元では、「学習計画」「図書資料(年鑑・統計資料)の利用」「図書資料以外(新聞)の利用」などの力を付けたいと考えた。自分の意見を裏付けるために必要な資料について、具体的に計画を立ててから資料を探すようにした。その結果、短時間で資料を見つけ、新しい資料の探し方を身に付けることができた実感する姿が見られた。また、グラフが使われている新聞資料を用意し、グラフの効果について評価しながら読む活動を設定したことで、教科書の教材文を通して学習した「資料の効果」の意味がより理解できたとともに、図書資料以外のメディアへの興味関心が高まった。更に、国語科の学習において年鑑などの統計資料を紹介することにより、必要な資料に必要な場面で出会う機会を与えることができた。

第4章 主体的・意欲的に学び続ける力の育成をめざして

第1節 研究の成果と課題

各教科等において学校図書館を活用することで以下の成果が見られた。

- ①子どもたち一人一人が自分の課題をもち、意欲的、主体的に学ぶ姿が見られた
- ②今まで知らなかったことに出会う楽しさを実感し、考えの広がりや深まりにつながった
- ③身に付いた力をメタ認知できることで、さらなる課題解決の意欲や自信につながった
- ④よりよいタイミングで様々な資料と出会う機会を作ることができた

一方、一人一人の課題解決に必要な資料を事前に準備することや、教科での学びと読書を結び付け全ての学習の基盤となる読書力を高めることが必要であるとわかった。

第2節 学びの中核をなす学校図書館であるために

今後、学校図書館を更に活用していくために、学校の実態や特色、学習内容等を考慮し、各学校で学校図書館活用計画を作成することが望ましい。また、学習に役立つ全てのジャンルの資料をバランスよく揃える、必要な資料を自分の力で探すことのできる配架にする、学び方を示す掲示を工夫する、いつでも開いている学校図書館づくりを進めるなどの環境づくりが大切である。同時に、全ての教職員が学校図書館の意義や役割を共通理解し、司書教諭や図書館教育主任を中心に組織的に取り組むための校内体制づくりが重要である。